

# 顔面が動かない！？ ～顔面神経麻痺について～

川口市立医療センター

耳鼻咽喉科

きし  
岸

ひろ ゆき  
博 行



ある日突然、口から水がこぼれた、顔を洗った際に片眼だけ水が入ったという症状で受診されます。耳や喉が痛いといった症状に比べマイナーではありますが、耳鼻咽喉科医が診察しないといけない病気の一つです。

発症のメカニズムは側頭部の骨の中を走行する顔面神経が何らかの原因で炎症をおこし神経がむくむと、周囲の硬い骨によって首を締められるような状態になって麻痺が進行するとされています。先程何らかの原因と書きましたが、いわゆる“みずぼうそう”を引き起こすウイルスが原因の場合はハント症候群、検査したけれども原因が特定できない場合をベル麻痺(特発性)と診断しています。一般的にベル麻痺がハント症候群より多く、治りやすいといわれています。

麻痺の程度は額～眼のまわり～頬、口唇周囲の筋肉の動きで判断しますが、麻痺の自覚は首が絞められている状況ですので、ただちにその状態を解除させなければなりません。早急に治療しない場合、顔の左右差が顕著になって、麻痺が残存することもあります。

治療にはステロイドや抗ウイルス薬を用いますが、急に発症する病気ですので早期に治療することが重要です。また重症例にはより多くのステロイドや抗ウイルス薬が必要になりますので、場合によって入院加療が必要です。発症してしまった場合はただちに耳鼻咽喉科を受診し、専門医の指示に従って速やかに治療を受けることがとても大切です。